

# 研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：公益社団法人 長寿社会文化協会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
<b>1 職務の理解</b>	<b>6時間</b>	<b>1 職務の理解</b>	<b>6時間</b>	<b>1 職務の理解</b>	
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	4	(1) 講義及び演習：介護保険、介護保険外のサービス内容、職務内容はどんなものがあるかグループディスカッションを行いリーダーが発表する	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	2	(2) 講義のみ	
<b>2 介護における尊厳の保持・自立支援</b>	<b>9時間</b>	<b>2 介護における尊厳の保持・自立支援</b>	<b>9時間</b>	<b>2 介護における尊厳の保持・自立支援</b>	
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	5	通信講習・講義及び演習：高齢者虐待防止策についてグループディスカッションを行いリーダーが発表する。	
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	4	(2) 通信講習のみ	
<b>3 介護の基本</b>	<b>6時間</b>	<b>3 介護の基本</b>	<b>6時間</b>	<b>3 介護の基本</b>	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1	(1) 通信講習のみ	
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	2.5	通信講習・講義及び演習：介護職員としての倫理の必要性、社会的責任についてテキストの事例をもとにグループディスカッションを行いリーダーが発表する。	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1.5	通信講習・講義及び演習：介護におけるリスクに気づき緊急対応の重要性を理解する。	
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1	(4) 通信講習のみ	
<b>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携</b>	<b>9時間</b>	<b>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携</b>	<b>9時間</b>	<b>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携</b>	
(1) 介護保険制度		(1) 同左	3	通信講習・講義及び演習：介護保険制度の仕組みについてグループディスカッションを行い、リーダーが発表する	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度		(2) 同左	3	(2) 通信講習のみ	
(3) 医療との連携とリハビリテーション		(3) 同左	3	(3) 通信講習のみ	
<b>5 介護におけるコミュニケーション技術</b>	<b>6時間</b>	<b>5 介護におけるコミュニケーション技術</b>	<b>6時間</b>	<b>5 介護におけるコミュニケーション技術</b>	
(1) 介護におけるコミュニケーション		(1) 同左	4.5	通信講習・講義及び演習：三人一組で（利用者役・介護者役・観察者）高齢者介護における共感・受容・傾聴の態度のロールプレイングを行うコミュニケーションの技術を体験する。	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		(2) 同左	1.5	(2) 通信講習のみ	
<b>6 老化の理解</b>	<b>6時間</b>	<b>6 老化の理解</b>	<b>6時間</b>	<b>6 老化の理解</b>	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常		(1) 同左	4.5	通信講習・講義及び演習：高齢者疑似体験セットを用いて高齢者のからだの変化を体験し、具体的な体の違いについてをグループディスカッションを行いリーダーが発表する。	

	(2) 高齢者と健康		(2) 同左	1.5	(2) 通信講習のみ
<b>7</b>	<b>認知症の理解</b>	<b>6時間</b>	<b>7</b>	<b>認知症の理解</b>	<b>6時間</b>
	(1) 認知症を取り巻く状況		(1) 同左	1	(1) 通信講習のみ
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		(2) 同左	2.5	(2) 通信講習・講義
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		(3) 同左	2.5	通信講習・講義及び演習：認知症の方への援助方法にはどのような方法があるかグループディスカッションを行いリーダーが発表する。
	(4) 家族への支援		(4) 同左	1	(4) 通信講習のみ
<b>8</b>	<b>障害の理解</b>	<b>3時間</b>	<b>8</b>	<b>障害の理解</b>	<b>3.5時間</b>
	(1) 障害の基礎的理解		(1) 同左	2.5	通信講習・講義及び演習：障害の受容の段階についてを講師が示した事例をもとにグループディスカッションを行いリーダーが発表する。
	障害の医学的側面、生活障害、 (2) 心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		(2) 同左	0.5	(2) 通信講習のみ
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		(3) 同左	0.5	(3) 通信講習のみ
<b>9</b>	<b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b>	<b>75時間</b>	<b>9</b>	<b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b>	<b>75時間</b>
	ア 基本知識の学習	10～13時間	ア 基本知識の学習	10時間	ア 基本知識の学習
	(1) 介護の基本的な考え方		(1) 同左	2	(1) 通信講習のみ
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		(2) 同左	4	(2) 通信講習のみ
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		(3) 同左	4	講義及び演習：高齢者の介護におけるボディメカニクスの活用を体験し、又バイタルチェックを利用者役と介護者役にわかれて行う。
	イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間	イ 生活支援技術の講義・演習	58時間	イ 生活支援技術の講義・演習
	(4) 生活と家事		(4) 同左	5	講義及び演習：買い物支援の事例をもとに利用者役と介護者役にわかれて、ロールプレイを行う。
	(5) 快適な居住環境整備と介護		(5) 同左	6	(5) 講義のみ
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(6) 同左	6	講義及び演習：衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面などの実技演習を行う
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(7) 同左	12	講義及び演習：体位変換・姿勢の保持・移動・移乗介助（車いす・スライディングシートなど）の実技演習を行う。
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(8) 同左	6	講義及び演習：ベッド上、テーブルでの食事介助、口腔ケアの介助などの実技演習を行う。
	(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(9) 同左	6	講義及び演習：全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄（服をきたままベッド上で）などの実技演習を行う。
	(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(10) 同左	6	講義及び演習：排泄の関連用具について扱い方、オムツ交換・ベッド上での排泄介護、ポータブルトイレにての排泄の実技演習を行う。

(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	6	講義及び演習：快適な睡眠環境の整え方、
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	5	(11) ベッドメイキングの技術、褥そう予防などの実技演習を行う。
(実習) ※ (50～55時間中12時間以内)	(実習) ※		(12) 講義のみ
介護実習 ○時間			(実習) ※
ホームヘルプサービス ○時間			
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 10時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	4	通信講習・講義及び演習：グループにわかれて個別援助計画の作成を行い、リーダーが発表する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6	通信講習・講義及び演習：事例をもとに支援する内容をグループディスカッションし実技演習を行う。
<b>10 振り返り 4時間</b>	<b>10 振り返り 4時間</b>		<b>10 振り返り</b>
(1) 振り返り	(1) 同左	2	講義及び演習：全過程を振り返り、研修を通じて学んだこと、習得したことについて、二人一組で発表しあう。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	(2) 講義のみ
追加カリキュラム			
<b>計 (130 時間)</b>	<b>計 (134.5時間)</b>		

※ 「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。